

2013年1月18日プレスリリース

山口情報芸術センター [YCAM] 10周年記念祭

10周年記念祭 公募企画1

「LIFE by MEDIA 国際コンペティション」

募集期間：2013年3月1日(金) - 3月15日(金) 必着

展示期間：7月6日(土) - 9月1日(日) / 11月1日(金) - 12月1日(日)

10周年記念祭 公募企画2

「架空の映画音楽の為の映像コンペティション」

募集期間：2013年4月15日(月) - 4月30日(火)

展示期間：7月6日(土) - 9月1日(日) / 11月1日(金) - 12月1日(日)

10周年記念祭においてYCAM初の公募企画がスタート！

＜アート＞＜環境＞＜ライフ＞を拓げるアイデアや映像を募集します。

2013年11月に10周年を迎える山口情報芸術センター[YCAM]は、アート／メディア／身体表現の領域を拓げる創造と発信拠点として「アートと環境の未来・山口 YCAM10周年記念祭」を開催します。YCAMが拠点とする山口市と一体となって取り組む事業の一つとして、初の公募展示「LIFE by MEDIA 国際コンペティション」および「架空の映画音楽の為の映像コンペティション」を開催いたします。

「LIFE by MEDIA 国際コンペティション」が募るのは、メディアによるこれからの生き方／暮らし方の提案。震災以降問い直されている、生きることや暮らしへの根源的な探究に対して、メディアや情報といった考え方によって継続的なプラットフォームが身近に生み出されるアイデアを募集し、優秀なプランを山口の地域コミュニティにおいて実現させます。

「架空の映画音楽の為の映像コンペティション」は、実在してしない映画の為に作曲された映画音楽から想像される映画／映像を募集します。通常は存在する映画に合わせてつけられる映画音楽ですが、順序を逆にすることで、映像／映画と音楽の関係性や、映画音楽とは何かを改めて考えるきっかけにもなるでしょう。

これらの企画は、いずれもYCAM10周年記念祭が掲げるテーマの＜アート＞＜環境＞＜ライフ＞を、ジャンルを超えたより広い層に周知すると共に、国内外から幅広く募集を募ることで、これまで紹介される機会のなかった新しい才能と出会うことを目的としています。



お問合せ 山口情報芸術センター[YCAM] 広報担当：田中
 住所：〒753-0075 山口県山口市中園町7-7
 TEL：083-901-2222 FAX：083-901-2216
 e-mail：press@ycam.jp
 プレス用写真等ご入用の方は上記までご連絡ください。

10周年記念祭 公募企画1

『LIFE by MEDIA 国際コンペティション』

メディアによるこれからの生き方／暮らし方の提案

坂本龍一（音楽家）、青木淳（建築家）、山崎亮（コミュニティデザイナー）を始めとする多彩なジャンルの審査員が、震災以降見直されているメディアと生活のあり方についてのアイデアを審査します！

優秀なアイデアはYCAM10周年記念祭期間中、YCAM周辺エリアにて実現されます。

【企画意図】

「シェア」や「ノマド」、「モバイルハウス」など、近年変わりつつある「生き方」「暮らし方」のかたちの未来を問うプランを募集します。震災をきっかけに、情報の取り方や編集能力に飛躍的な多様性が生まれました。それは一方でわたしたちが生きる土台となる社会や地域社会との直接的な関係の築き方を問い直すきっかけとなったとも言えます。これからの地域社会において、メディアおよび情報を通じたコミュニケーションはどう有機的に働きかけることができるのでしょうか。近年問い直されている、生きることや暮らしへの根源的な探究に対して、メディアや情報といった考え方によって継続的なプラットフォームが身近に生み出されるアイデアを、山口の地域コミュニティにおいて実現させる試みです。

*メディアといっても、メディアテクノロジーに限らず、賑わいやコミュニケーションを生み出すことをここでは指しています。街の風景を一変させる仕掛け、街の人たちが集いなくなる公園、新しいコミュニケーションを生み出す移動式サービスなど、彫刻や映像、建築、インスタレーション、プロジェクト、ワークショップなど、アートやデザインにおけるジャンルを超えた表現形態を対象とします。

【審査員】（敬称略）

坂本龍一（音楽家）、青木淳（建築家）、江渡浩一郎（メディアアーティスト）

津村耕佑（FINAL HOMEディレクター）、山崎亮（コミュニティデザイナー）、兼松佳宏（greenz.jp編集長）

【応募資格】年齢・国籍不問（グループ応募可、複数応募可）。応募作品のジャンルは問いません。

【制作費】1,000,000円（作品製作費および展示設営に係る費用全て含む。※別途交通費支給、住宅提供あり）

【募集期間】2013年3月1日（金） - 3月15日（金）必着

【結果発表】2013年4月下旬

【展示期間】10周年記念祭会期中：2013年7月6日（土） - 9月1日（日） / 11月1日（金） - 12月1日（日）

*応募方法など詳細は、**特設ウェブサイト** <http://10th.ycam.jp/lifemedia/> をご覧ください。



10周年記念祭 公募企画2

『LIFE by MEDIA 国際コンペティション』

メディアによるこれからの生き方／暮らし方の提案



【審査員略歴】

坂本龍一 Ryuichi Sakamoto

音楽家。52年生まれ、米国ニューヨーク州在住。78年『千のナイフ』でデビュー、同年YMOに参加。YMO散開後、数々の映画音楽を手がけ、作曲家として米アカデミー賞を受賞するなど世界的な評価を得つつ、常に革新的なサウンドを追求している。99年制作のオペラ『LIFE』以降、環境・平和・社会問題に言及することも多く、9・11同時多発テロをきっかけに、論考集『非戦』を監修。07年には「more trees」を設立し、温暖化防止についての啓蒙や植樹活動を行う。09年には国連環境計画が実施するECHO Festivalにおいて「Echo Award」を受賞。同年、フランス共和国より芸術文化勲章オフィシエ受勲、10年文化庁芸術選奨文部科学大臣賞受賞。11年東日本大震災復興支援プロジェクトとして、「LIFE311 by more trees」「こどもの音楽再生基金」「www.kizunaworld.org」など、さまざまな活動を続けている。

江渡浩一郎 Koichiro Eto

メディアアーティスト／産業技術総合研究所研究員。97年、慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科修了。10年、東京大学大学院情報理工学系研究科博士課程修了。博士（情報理工学）。産総研で「利用者参加によるサービスの構築・運用」をテーマに研究を続ける傍ら、「ニコニコ学会β」の発起人・委員長も務める。主な著書に『パターン、Wiki、XP』（技術評論社）、『ニコニコ学会βを研究してみた』（河出書房）。

山崎亮 Ryo Yamazaki

studio-L代表。京都造形芸術大学教授。73年愛知県生まれ。まちの課題を、まちに住む人たちが解決するための方法を提案する、コミュニティデザインという仕事に携わる。まちに住む人たちとワークショップを行い、その地域の将来を考える総合計画づくりを行う。建築やランドスケープのデザイン、公園や駅前などの公共的な空間を使いこなすためのプログラムの仕組みを考えたり、プロジェクトの計画づくりにも携わる。関わる人が、常にそのプロジェクトを通じて、積極的にまちへと関わられるチームを生み出すことを目指している。

青木淳 Jun Aoki

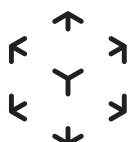
56年横浜市生まれ。82年東京大学大学院修士課程修了。83～90年磯崎新アトリエに勤務後、91年に青木淳建築計画事務所を設立。個人住宅をはじめ、公共建築から商業建築まで、多方面で活躍。代表作に、「馬見原橋」、「S」、「渦博物館」、「ルイ・ヴィトン表参道」、「青森県立美術館」等。著書「JUN AOKI COMPLETE WORKS 1: 1991-2004」「同第2巻 Aomori Museum of Art」（INAX出版）、「原っぱと遊園地」（王国社）他。04年度芸術選奨文部科学大臣新人賞受賞。

津村耕佑 Kosuke Tsumura

59年生まれ。三宅一生活の下、主にパリコレに関わる。「究極の家は服である」というサバイバルウェア「FINAL HOME」ディレクター。武蔵野美術大学空間演出デザイン学科教授。82年第52回装苑賞受賞、92年「第21回現代日本美術展」準大賞受賞、94年第12回毎日ファッション大賞新人賞、資生堂奨励賞受賞、01年織部賞受賞、00年「ヴェネツィア・ビエンナーレ建築展」、02年「上海ビエンナーレ」、05年「SAFE DESIGN TAKES ON RISK」（ニューヨーク近代美術館）、12年「ドクメンタ13」（カッセル）など数々の美術展にも参加。

兼松佳宏 Yoshihiro Kanematsu

79年秋田生まれの勉強家兼コンテンツディレクター。greenz.jp編集長。アートディレクターとしてCSRコンサルティング企業に転職後、06年フリーランスのクリエイティブディレクターとして独立。ウェブマガジン「greenz.jp」の立ち上げに関わる。10年12月よりgreenz.jp編集長。NPO法人グリーンズ理事。著書に『ソーシャルデザイン 社会をつくるグッドアイデア集』（グリーンズ編）、『クリエイティブ・コミュニティ・デザイン 関わり、つくり、巻き込もう』（共著）など。



「アートと環境の未来・山口」
YCAM 10周年記念祭



10周年記念祭 公募企画2

『架空の映画音楽の為に映像コンペティション』

架空の映画の為に作曲された映画音楽につける映画／映像を募集！

作曲に三輪眞弘、上野耕路、青葉市子。審査員に坂本龍一や樋口泰人、辻川幸一郎など。

映画作家／映像作家からの幅広いジャンルの映像を募ります！

【企画意図】

映画や映像と共にあり、その演出に効果的に同期していく映画音楽。その多くは、存在する映画に合わせてつけられる映画音楽ですが、一方で実在しない架空の映画の為に作曲された映画音楽も存在します。音楽家が、あるイメージを持って作曲した、その実在しない映画の為に音楽に、映像をつけていくとしたら、どのような解釈で作品が出来上がるのでしょうか。そしてそれは、映像／映画と音楽の関係性も含め、改めて映画音楽とは何かを考えるきっかけにもなるのではないのでしょうか。

この度、3名の作曲家に「架空の映画の為に作曲された映画音楽」の作曲を委嘱し、その音楽から想像される映像をつけた映画／映像をジャンル問わず、広く募集します。選出された作品はYCAMや市内各所にて上映。

【楽曲提供者】（敬称略）三輪眞弘、上野耕路、青葉市子

【審査員】（敬称略）坂本龍一（音楽家）、樋口泰人（boid主宰／映画批評）、岡本美津子（プロデューサー／東京芸術大学映像研究科アニメーション専攻教授）、辻川幸一郎（映像作家）、真利子哲也（映画監督）、阿部一直（山口情報芸術センター [YCAM] 副館長／チーフキュレーター／アーティストックディレクター）

【応募資格】年齢・国籍不問（グループ応募可、複数応募可）。応募作品のジャンルは問いません。

【賞金】500,000円

【募集期間】2013年4月15日（月） - 4月30日（火）必着

【結果発表】2013年7月1日（月）

【展示期間】10周年記念祭会期中：2013年7月6日（土） - 9月1日（日）／11月1日（金） - 12月1日（日）

【楽曲提供者プロフィール】

三輪眞弘 Masahiro Miwa

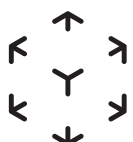
58年生まれ。作曲家、メディアアーティスト。情報科学芸術大学院大学教授。東京都立国立高等学校卒業後、ベルリン芸術大学にて伊桑に師事し、その後ロベルト・シューマン大学でギュンター・ベッカーに師事。04年の『オーケストラのための「村松ギヤ・エンジンによるポレロ」』で芥川作曲賞を受賞するほか、07年に「逆シミュレーション音楽」がプリ・アルス・エレクトロニカのデジタルミュージック部門でゴールデン・ニカ賞を受賞するなど、受賞多数。10年度芸術選奨文部科学大臣賞受賞。

青葉市子 Ichiko Aoba

90年生まれ。17歳からクラシックギターを弾き始める。10年1月、19歳の時に1stアルバム『剃刀乙女』でデビュー。2ndアルバム『檻髪（おりがみ）』、3rdアルバム『うたびこ』と、これまでに3枚のオリジナル・アルバムを発表している。

上野耕路 Koji Ueno

1970年代後半よりバンド『8 1/2』『ゲルニカ』で活動。以後バレエ、舞台、映画、CM（『たらこ・たらこ・たらこ』など）で活躍。1989年に『ウインタマ・ギルー』で第44回毎日映画コンクール音楽賞。NHK音楽映像詩『幻蒼』（1995年）で第32回プラハ国際テレビ祭チェコ・クリスタル賞、犬童一心監督『ゼロの焦点』（2009年）で日本アカデミー賞優秀音楽賞受賞。2012年、蜷川実花監督作品映画『ヘルタースケルター』、最新作は、犬童一心・樋口真嗣監督『のぼうの城』。日本作曲家協議会会員。JASRAC正会員。日本大学芸術学部映画学科非常勤講師。



「アートと環境の未来・山口」
YCAM 10周年記念祭

10周年記念祭 公募企画2

『架空の映画音楽の為の映像コンペティション』



【審査員略歴】

坂本龍一 Ryuichi Sakamoto

音楽家。52年生まれ、米国ニューヨーク州在住。78年『千のナイフ』でデビュー、同年YMOに参加。YMO散開後、数々の映画音楽を手がけ、作曲家として米アカデミー賞を受賞するなど世界的な評価を得つつ、常に革新的なサウンドを追求している。99年制作のオペラ『LIFE』以降、環境・平和・社会問題に言及することも多く、9・11同時多発テロをきっかけに、論考集『非戦』を監修。07年には「more trees」を設立し、温暖化防止についての啓蒙や植樹活動を行う。09年には国連環境計画が実施するECHO Festivalにおいて「Echo Award」を受賞。同年、フランス共和国より芸術文化勲章オフィシエ受勲、10年文化庁芸術選奨文部科学大臣賞受賞。11年東日本大震災復興支援プロジェクトとして、「LIFE311 by more trees」「こどもの音楽再生基金」「www.kizunaworld.org」など、さまざまな活動を続けている。

岡本美津子 Mitsuko Okamoto

プロデューサー。NHKにてデジタルアート作品の公募番組「デジタル・スタジアム」や、データ放送、インターネット、携帯コンテンツの開発などを手がける。2008年から東京藝術大学映像研究科アニメーション専攻教授に就任。企画・プロデュースの研究、教育を行う。2010年4月からNHKEテレで毎週月～金放送中の「2355」「0655」および、2012年3月からEテレ「テクネ 映像の教室」の企画・プロデュース、NHKみんなのうた「moonfesta」「ヤミヤミ」の映像プロデュースなどを行う。

真利子哲也 Tetsuya Mariko

81年、東京生まれ。法政大学在学中に『ほぞ』が、03年長府映画祭でグランプリを受賞。8mm映画『極東のマンション』『マリコ三十騎』が2年連続でゆうばり国際ファンタスティック映画祭オファスター部門グランプリを受賞し、注目される。07年、東京藝術大学大学院映像研究科に入学。修了作品『イエローキッド』が、学生映画としては画期的なロードショー公開となる。11年『NINIFUNI』が、ロカルノ国際映画祭で、中編映画としては異例の招待作品に選ばれた。新作はオムニバス映画『同じ星の下、それぞれの夜』の一篇、『FUN FAIR』。

樋口泰人 Yasuhito Higuchi

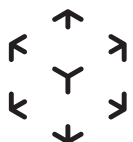
57年生まれ。映画批評、boid主宰。「カイエ・デュ・シネマ・ジャポン」編集委員を経て、98年に個人レーベルboid（ボイド）を設立。執筆活動と並行して、ドキュメンタリー・ビデオ、書籍、音楽CDの企画・製作、映画の配給・宣伝を手掛ける。04年から吉祥寺バウスシアターでライブ音響システムを使用した「爆音上映」のイベントを開始、さらに08年からは毎年「爆音映画祭」(www.bakuon-bb.net)も開催している。著作に『映画とロックンロールにおいてアメリカと合衆国はいかに闘ったか』（青土社刊）がある。

辻川幸一郎 Koichiro Tsujikawa

フリーのグラフィックデザイナーとして活動をはじめ、友人のミュージシャンのMV制作を頼まれた事から、映像制作をはじめ。現在ではCM、MV、ショートフィルム、などの映像作品を中心に、webやグラフィックの企画など様々なジャンルで国内外問わず制作中。これからも。

阿部一直 Kazunao Abe

YCAMチーフキュレーター、アーティストディレクター、副館長。90年～01年キャノン株式会社文化支援プロジェクト「キャノン・アトラボ」プロジェクト専任コ・キュレーターとして創設から関わり、古橋悌二「LOVERS」、Knowbotic Research「IO_DENCIES」、C.ニコライ+M.ペリハン「polar」をはじめ、数々のメディアアートのオリジナルプロジェクトをプロデュース。01年より山口情報芸術センター開館準備室を経て03年より現職。12年より副館長。05年ベルリン「transmediale award 06」国際審査員。09年「第4回デジタルアートフェスティバル台北/デジタルアートアワーズ」国際審査員。



「アートと環境の未来・山口」
YCAM 10周年記念祭